

地域に根ざした健康づくり支援の新展開 ～市民子育て支援ネットワークとの協働～

○大橋 正和, 赤井 綾美, 文元 基宝

1) はじめに

近年、わが国では核家族化、地域社会の衰退が進み、子どもとその家族を取り囲む環境は大きく変わりつつある。また、疾病構造の変化により、保健・医療専門職は生活者の視点に立った支援とともに、ハイリスクな疾病予防からよりポピュレーションな健康づくり支援へのシフトが求められている。

保健・医療専門職が地域に溶け込んで、住民の健康づくりを展開していくには、地域と住民のニーズやQOLを理解し、住民生活を支援している様々なネットワークや団体などの組織との連携・協働が必要となる。

われわれは昨年度、地域の子育て支援ネットワークが主催する大規模な親子の遊びを中心とした「子育てイベント」に参加する機会を得た。

そこで、地域の生活者の集まりの中で、ヘルシーセッティングな場をどのように設け、健康づくり支援を展開できるかについて、新たな実践を試み、興味ある知見を得たので報告する。

2) 目的

- ①：地域の生活者の集まりの中で、健康な生活者が歯やお口の健康について、どのような関心や悩みを抱えているのかを探る。
- ②：健康づくり支援を進めるにあたって、地域での口腔保健に関する知識・態度・習慣などの背景にある教育的・環境的なニーズについての基礎資料を収集する。
- ③：①・②を踏まえ、イベントにふさわしいヘルシーセッティングな場としての設営や予防啓発、健康教育の実践方法を模索することを目的とした。

3) 対象

大阪市西淀川区、大阪市淀川区、奈良県生駒市において開催（2006.11～2007.3）された、子育て支援ネットワークが主催する「ファミリーひろば」に来場した親子を対象とした。（3会場あわせて約2,000名の来場）

4) 方法

目的①については、歯やお口の健康についての相談事について、自記式アンケートとともに、インタビュー形式で聞き取りを行った。

目的②については、口腔保健に関する知識・態度・習慣とその背景についての自記式アンケートを行った。

目的③については、お口の健康を体感する「口腔保健ブース（以下：ブース）」を3回出展した。毎回のプロセス評価をフィードバックし、ヘルシーセッティングな場の模索を試みた。基本的なブースのセッティングを以下に示す。

＜ブースのセッティングについて＞

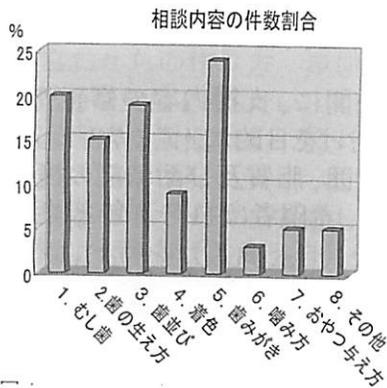
- プログラムタイトル「お口の不思議発見！」
- マンパワー 関西ウェルビーイングクラブ（開業医を中心とした歯科医師・歯科衛生士の地域支援組織、約20名）
- 二つの異なるゾーンを持つブースを設営
 - 「健康増進ゾーン」
 - 乳幼児歯科健康相談、フッ化物洗口体験、咬合力測定コンテスト、顕微鏡でみる歯の世界
 - 「ふれあいゾーン」
 - バルーンアートづくり、歯によい食べ物釣りゲーム、インド文化紹介、ボディペイント

5) 結果

＜目的①について＞

3会場でのブース参加親子116組の内、歯やお口の健康についての相談は64件であった。年齢別の相談者の割合は、1歳・2歳の親が最も多く70%を超え、3歳では約半数から相談があった。また、4歳の親の相談割合は30%未満と少

なくなり、5歳を超えると歯のはえ代わりや永久歯の虫歯予防などのニーズにより、再び50%を超えた。全体の相談内容とその割合については、図1に示す。



<目的②について>

アンケート結果について、表1に示す。

表1 アンケート内容	Yes
フッ素はむし歯予防に効果があると思う	94%
家庭や保育所などの集団で使用できるフッ素洗口を知っている	22%
フッ素は食べ物や飲み物に含まれていることを知っている	46%
お母さんのお口のミュータンス菌が子どもに感染することを知っている	76%
卒乳が遅れると、虫歯になるリスクが高くなることを知っている	77%
1歳までに、甘いおやつを味を覚えた	42%
安心して来院できる歯科医院がある	56%
現在、歯に関して専門家相談したいことがある	34%

教育的な背景として、フッ化物の有用性は理解している親が90%を超えていたが、集団での応用についての理解割合は22%と低かった。

環境的な背景として、40%以上の親子が「かかりつけ歯科医」を持たずにいた。また、具体的なフッ化物の入手法について、多くの質問が寄せられるなど、実現因子の不足が認識された。

<目的③について>

毎回のプロセス評価とフィードバックにより、回を重ねるごとに「健康増進ゾーン」と「ふれあいゾーン」の両方がうまく噛み合い、3会場で116組の親子のブース参加を得た。フッ化物洗口を実際に体験された親子は3会場あわせて200名を超えた。

5) 考察

ブースの出展にあたって、様々な地域ネットワークや団体などの組織との連携・協働を通して、地域でのネットワーク組織の役割やキーパーソンを知ることができた。またブースの性格上、対象者への支援が主催者にも直ちに手ごたえのある実感としてフィードバックされるため、各個人の中でそれぞれ「学び」がおきるという波及効果もあり、今後の活動展開へのヒントを大いに得ることができた。

子どもの歯とお口の相談は予想以上に多く、アンケート結果や相談を通じて市民が困り事を気軽に専門家と相談できる場が地域には極端に少ないこと、むし歯の予防知識は持ち合わせていてもまだ十分に実践まで生かしていないことが明らかとなった。これらの課題は現在の保健・医療システムでは満たせないことがあることを示しており、地域における住民親子の歯の健康づくりに必要なネットワークは未開発であることが明らかになった。

今回の取り組みは小規模で散発的ではあったが、地域での健康づくりを充足させるために専門職がなしえる支援手段の一つになる可能性があると考えられ、今後の取り組みの中で地域ネットワークを構築し、他団体と将来連携していくことができれば健康づくりの展望も具体的に開けてくると思われた。

さらに、今後の継続的な支援のためには明確な戦略と教育・環境的な整備が必要であることが示唆された。

6) RTで検討したい課題

事業概要を簡潔に提示したあと、具体的に事業を発展継続させる議論を希望する。

(連絡先) 大橋 正和

〒630-0257 奈良県生駒市元町1丁目3-20 中和商事ビル2階

おおはし歯科 TEL・FAX 0743-75-8241

e-mail hsc@m5.kcn.ne.jp